

# 国際公文書館会議東アジア地域支部 (EASTICA) 第9回総会及びセミナー等の概要

梅原 康嗣  
国立公文書館

## 1. はじめに

2009年9月14日(月)から19日(土)まで、中国の青島市において国際公文書館会議東アジア地域支部(EASTICA)の第9回総会・セミナーが開催された。

「危機とアーカイブズ」をテーマとするセミナーには、主催国である中国のほか、EASTICA加盟の国・地域(日本、韓国、北朝鮮、香港、マカオ)から、108名が参加した(配布された資料に基づく登録者数)<sup>1</sup>。日本からは国立公文書館(以下「当館」という。)から高山正也館長(EASTICA新議長)、菊池光興特別相談役他4名が出席した<sup>2</sup>。

青島入りした14日はあいにく雨まじりのやや肌寒くジャケットが必要となる気候であったが、翌日からは一転して天候にも恵まれ、会場となったホテルの前には、中国一の海水浴場と知られるビーチが広がり、早朝から泳ぐ人々が絶えず、日本と気候が一月以上違うのではないかと感じた<sup>3</sup>。

## 2. EASTICA 理事会 (9月15日)

サイモン・チュー事務局長が口火を切ったあと、EASTICA新議長として、当館の高山館長が開会の辞を述べた。つづいて、中国国家

梅原 康嗣(うめはら やすし)  
独立行政法人国立公文書館公文書専門官

档案局の楊継波副局長が主催国を代表して歓迎の辞を述べた。さらに、EASTICA前議長である当館の菊池特別相談役が議長退任の辞を述べた。このあと、高山議長が以後の議事進行を事務局長に委任し、議事が進んだ。



理事会(2009.9.15) 向こう側右から事務局長、通訳、菊池前議長、高山新議長

事務局長から理事会の新メンバー等の紹介があり、韓国国家記録院のパク新院長のほか、北朝鮮及びモンゴルの代表(モンゴルは、

- 1 今回朝鮮民主主義人民共和国の国立公文書館から4名が参加したが、これまでの参加については不明である。
- 2 今回は残念ながら国立公文書館以外の日本国内の参加者はなかった。
- 3 青島市は、緯度的には当館分館のあるつくば市や福井市あたりと同じである。人口は800万人、2008年の北京オリンピックではボートセーリングの会場となり、国際的な観光都市を目指して高層ビルとマンションの建設ラッシュが続いていた。市街地には赤い屋根の建物が並びヨーロッパ風の異国情緒があふれ、ドイツの植民地であった影響を感じさせた。

去る8月の水害により国立公文書館の施設等に被害を受けたため、館長は出席せず）が、それぞれ簡単な自己紹介のスピーチを行った。

香港大学と共催している既卒者向けアーカイブズ学講座 (Postgraduate Certificate in Archival Studies) については、今年度は、香港大学における講座の定期見直しが行われているため、開催を見合わせたこと、見直しが完了するまで約1年を要すると見られること等が事務局長から報告された。既卒者向けアーカイブズ学講座については、今後も継続して開催する方針が理事会において再確認され、香港大学における定期見直し完了後の2010年9月～11月に開催する方向で準備することが決定された。

つづいて、事務局長から、ICA本部からの依頼により、アジアにおけるアーキビスト教育カリキュラム開発のプロジェクトを行うことが報告された。

さらに、2010年 EASTICA セミナーを韓国で(2010年6月に、国際アーカイブズ文化展示会 (IACE) と同時開催)、2011年 EASTICA 第10回総会を日本で開催(開催時期は、同年10月～11月)することが提案され了承された。

今回申請中であった日本アーカイブズ学会他がB会員として承認された。今後の活動に期待したい。

EASTICA の法的根拠について意見交換を行い、今後 ICA 本部のアドバイスを受けつつ、2011年からの新たな理事会メンバーに決定を委ねることになった。

### 3. EASTICA 総会 (9月16日)

高山館長が新議長として開会の辞を述べた。

2009年度の活動報告及び会計報告が承認された。また、2009年度以降の会費の値上げが承認された。

2010年に韓国で開催されるアーカイブズエキスポについてプレゼンテーション・参加呼びかけがあった。

今後の EASTICA の開催地について2011年までは次のように決定した。2010年韓国、2011年日本、2012年モンゴル(予定)である。

最後に議長在任中の EASTICA 活動への貢献を称え、菊池特別相談役が名誉会員に推挙され、満場一致で承認された。



名誉会員に推薦されスピーチする菊池光興特別相談役



総会の閉会スピーチをする高山正也館長

## 4. EASTICA セミナー (9月16～18日)

### 4.1 基調講演

アメリカから招へいた Julia Marks Young 氏 (ミシシッピ州アーカイブズ・歴史局アーカイブズ・記録サービス部ディレクター) 及び Preston Huff 氏 (アメリカ合衆国国立公文書記録管理院 (NARA) 南西地域担当) からの基調講演があった。ハリケーンカ

トリーナと米国国立公文書記録管理院の取り組みについての発表の概要を報告する。

米国史上最悪とも言われる自然災害ハリケーンカトリーナで、多くの人命が失われた。幸いにも生き延びた人々も新たな災難に直面した。突風、洪水、泥土が、テキサス、ミシシッピ、ルイジアナ、アラバマ州の重要記録にダメージを与え、水浸しにし、破壊した。医療記録・学校の記録・警察記録・裁判所記録…こうした記録がなければ、生存者であってもどこで住み、何を所有し、自分が誰であるかさえも証明することができない。自分の記録を再生することが、家屋や街の再建に先んじてなされなければならないし、より大変なことかもしれない。軍人はNARAに連絡を取り、改めてIDを入手することができた。このための情報がウェブページから引き出せるように工夫した。

個人の存在を証明する記録がなければ、災害で死亡した人の身元確認も困難である。状況をさらに悪化させたのは、記録を管理する公務員が犠牲者となったため、僅かな人で対応しなければならないことだ<sup>4</sup>。被災して、他州の病院に移動した際、医療記録が得られないとどのような状況になるか想像がつかだろう。行政ばかりではなく、州裁判所は裁判記録を地下に保管する例が多かった。記録は水で傷んだ<sup>5</sup>。

NARAは、ハリケーンカトリーナの影響を受けた記録を所有する連邦機関に対して、省庁の業務オペレーションを支援するために記



基調講演をする Mr. Preston Huff 氏

録の修復、記録管理に関するガイダンス、情報提供を行った。一方で被災記録の緊急処分について承認する権限を与えたという<sup>6</sup>。記録の緊急処分についての文書化がなされるのは言うまでもない。

Huff氏から報告があったケースは次のようなものであった。

ア) 鉱物管理局：ニューオリンズから5時間離れたテキサス州のヒューストンに移動したが、後にそこも別のハリケーンによって再び移動することになった。530人の職員中236人が家を失い、別の州に移った。電話が不通で、会社の連絡網を使い、ようやく連絡を取り合うことができるようになる。

イ) 退役軍人省：紙の記録はだめで、電子（コンピューター）記録が使えたため、様々なサービスを提供できた。洪水に対する備えから1階に記録を置かない、また風による

4 ルイジアナ州の重要記録局（出生記録、死亡証明、婚姻証明、離婚届等100年保存）はニューオリンズに保存され、全米の重要記録局と結ばれているという（参照、「ハリケーンカトリーナ湾岸記録を破壊」RIMジャーナル準備号、p12-15）。2種類のID確認記録が一般には必要であるが、被災者に対して対応を緩和する方法が検討された。

5 注4によると、当時進行中であった刑事事件3,000件のうち、尋問書、報告書、DNAサンプル等の重要な証拠が破壊されたので、大半の

訴訟が中断せざるを得なくなったとニューズウィーク誌が伝えたことを紹介している。

6 1) アラバマ・ミシシッピ・ルイジアナ州でハリケーンの影響を受けた施設にある記録、2) 記録が有害な物質で汚染され、健康・生命・財産に危険と見なされるもの、3) 記録の保存期間が10年以下の暫定処分となっているもの、4) 情報がある程度他の情報源に取り込まれる見込みがあるもの、に緊急の処分を承認する権限を与えた（注4に同じ）。

屋根の破損に対する備えから最上階にも置かない。ハリケーンの後で、紙の医療記録をニューオーリンズから2つの州（オクラホマ、ミズーリー）へ移動させ、アクセスを維持した。

ウ) 全国財務センター (NFC) : ルイジアナ州ニューオーリンズ市にある NFC は、130 以上の連邦政府機関に勤務する 56 万人以上の連邦政府職員に対して隔週で給与支払い処理を行っている。NFC は、必要情報が記録された磁気テープを「カトリーナ」が上陸する前にバックアップを分散させたため、給与支払い業務が中断されることはなかった。損害を受けた 15,000 箱の記録は真空凍結した上で NARA において放射線でカビを殺す等の対応がされた。

エ) アメリカ航空宇宙局 (NASA) : テキサスにあるジョンソン宇宙センターではハリケーンが予報された時、脆弱なビルからより安全な、暴風雨に耐えられるビルに重要記録を移動させた。

オ) 連邦裁判所 : ハリケーンカトリーナでは幸いにも被害を受けなかった。NARA にある自身の目録情報がないため、アクセスができない状況である。

この「ハリケーン」の経験から得たものは何か。

損害から記録を移動させる機関があった。海岸地帯から内陸部へ、安全なビルへ移動 (1 階、最上階は置かない)、窓から離す、夜間や週末に机の上に記録を置かないというクリーンディスク指針、コンピューター情報はミラーサイトを作る。記録のバックアップ、オフサイトへのデータ移動、記録のスキャン (二重、分散) 等を行う。

NARA の対応としては、電子記録貯蔵所を 2006 年に全米に 19 か所建設した。NARA のウェブサイトにカトリーナ関連サイトを設置した。「カトリーナ」後、連邦危機管理庁等と関係を緊密化した。記録の重要性を認識した

との声が寄せられた。連邦政府機関との情報交換を少なくとも年に 1 度開催することとした。書類を回復させる会社との関係をつないでいく。表計算ソフトウェアを発展、最新のものにしていく。ハリケーン予想に対する情報収集。自然災害をはじめとするいかなる非常事態に対しても政府の機能を継続するためには、周到な業務継続計画 (Continuity of Operation Planning) を策定することが必要である。森林火災、ハリケーン等多様な対策が必要である。物質的な備えも具体的に検討する。常に最新の職員リスト、電気・水道緊急連絡先などを整備する。専門家の組織・会社の連絡先の把握。災害時の本部 (複数想定) の設置場所の検討。プランのテスト・予行演習を実施しておく。

多くの省庁の計画は不十分であることが証明されてしまったが、「カトリーナ」の経験を経て、その重要性が再認識されることになった。また機関同士の連携、コミュニケーションをよくとることが重要である。

ポスト・カトリーナ、次のカトリーナへの準備は絶対に怠ってはならない。

## 4. 2 国・地域別報告

開催国のレポートを中心に紹介する。

### 4. 2. 1 中国

#### アーカイブズセキュリティと危機管理

Li Chen

中国は広大な領土 (東西及び南北の直線距離が 5,000km を超える) と豊富な資源を有する世界の古代文明の一つであり、頻繁に自然災害 (突風、洪水、台風、地滑り、地震等) に見舞われる国である。中国が災害に対処しているとき様々なレベルの档案馆とそのスタッフは災害救援事業において積極的で重要な役割を担っている。

第一に、すべてのレベルの指導者の意思決定を促進するためにアーカイブズを使用す

る。これは共産党及び政府の档案館に対する基本的要件であり、中国の档案法によってスタッフに課されている義務である。1998年の洪水に見舞われた際、アーキビストはニーズに応じ、中央党委員会へ有用な情報を提供した。湖北省档案館が編纂した1954年の洪水に対する記録は湖北省及び長江沿いの他省が洪水制御計画を策定するのにあたって参考にされた。SARSが発生した2003年前半には、档案館は伝染病に対する関連記録の編集等を通じて貢献、政府の指導者に情報伝達した。2008年震度8.0を記録した地震が四川省文川郡で起きた時、中央档案館は国家档案局長のリーダーシップの下に、素早く活動を展開し、地震当日の夜に、関連の震災救援記録の編集を完成させ、のちに参考資料2巻ほかを、責任指導者に提出した。1976年の河北省の唐山地震に関する記録をまとめ、救助活動に貴重な情報を提供した。

第二に、災害後の対策や復旧に役立てるためにアーカイブズを使用する。例えば、在住登録簿によって死者の特定を行い、人事档案を使用して孤児、独居老人、身体障害者への援助提供を助け、結婚記録により助成金・交付金を配るのに貢献した。建物と構造の資料によって家の損失分析にオリジナルの証拠を提供した。疾病記録によって、負傷者の防疫と解決に資することができた。水文学・地理学の記録で、地滑り、土砂崩れ、他の二次災害の可能性を分析し、堰き止め湖のモニターと危険度が高いダムを流出させるための有益な情報を提供した。さらに土地記録によって、立地選択や再建計画を助けた。“5.12地震”に続く100日間で成都自治体下の都江堰、彭州、常州の市档案館、公安当局、民生部、住宅局及び土地資源局は13,757件の文書参照を処理し、23,000記録のアクセスを提供した。

第三に、関連政府機関に防災の参考資料を提供するためにアーカイブズを使用する。人

の意思とは自然災害は無関係であるが、記録されたデータや現代の技術により、災害を予測し、損失を最小にすることが可能と考える。中国では、水資源、健康、地震学、気象、その他の専門部が自然災害の監視・予測に責任を持っている。それらは各々災害記録を管理する独自の档案部門を有している。これらの档案部門では一方ではデータのファイルに責任があり、他方では所属する部の業務に参考情報を提供するための関連材料を編集し、歴史的データを分析する義務がある。国家档案局は2008年緊急防災対策のガイドブックを作成した。

第四に、防災と災害制御の記録の完成のために、関連文書を編成し配布する。中国に「先祖が木を植え、子孫が木陰を楽しむ」という格言があるが、アーカイブズに通じるものだ。先祖によってつくられた資料を私たちが使用し、あとの人のために記録の保存が義務付けられる。災害救助本部のデータ収集・ファイリングのためのスタッフの他、災害の最前線にスタッフを差し向け、カメラでリアルタイムの情報を入手した。文川地震で档案局は温家宝首相による都江堰の小中学生にあてて個人的に書かれた42,000の手紙、70,000を超える写真、400時間を超えるビデオを収集した。これらは次世代に送る全て貴重なアーカイブズ資源である。

アーカイブズの安全性は、危機管理におけるアーカイブズ使用の前提条件である。自然災害はアーカイブズも危機にさらすため、危機管理とアーカイブズの保安は相互依存の関係にある。よってアーカイブズの安全のためには以下の行動が必要である。

- ア) 自然災害を最小限にするため環境保護の機能をアップさせなければならない。環境保護の機能をアップさせなければならない。環境保護を重視する。
- イ) 記録を維持するためのより強力な場所を確保する。中国国内では経済的・社会的開

発の不均衡さが存在し、十分な規格を満たしていない档案馆がある。国家档案局は、特に西部の档案馆の耐震設計について関連部門と相談して、改善を図るべき努めている。

ウ) アーキビストのための訓練を強化し、緊急事態に対処できる力量を高める。

エ) 災害復旧のためのアーカイブズのバックアップを作る。

アーキビストの協力で、記録は災害打倒により大きな役割を担うことができるであろう。

#### 4. 2. 2 韓国

##### 韓国における危機管理、公記録の管理

人災・自然災害を防ぐ NARA Repositly を建設した。2011 年までに電子記録を含む詳細なプランの構築を計画している。

#### 4. 2. 3 モンゴル

##### 危機時代のモンゴルの記録組織

ここ数年世界的な規模の金融危機に見舞われ、国・地方のアーカイブズの建築が停滞。2008 年 7 月 1 日の議会選挙で反対派がウランバートル市中央で社会的な暴動を起こし、建物の破壊や負傷者がでた。20 世紀のモンゴル史上の歴史的な記録が破壊された。36 州のうち、3、4 の独立アーカイブズビルが国内にあるだけ。8 月には豪雨のため国立公文書館の建物が被害を受け、トレーニングプログラムが延期を余儀なくされた。モンゴル政府は新しいビルをウランバートル近郊に建築することを決定。2012 年の EASTICA セミナー時に開館を計画。

上記のほか、香港から「政府記録の災害からの保護」、マカオからも報告があった。日本からは、梅原が「危機とアーカイブズ—公文書管理法の成立とその背景—」と題する報告を行った（報告文は 18～23 頁に掲載）。



#### 4. 3 シンポジウム

##### —コレクションの構築における経験の共有—

地元の青島市档案馆が海外から資料収集事業を行ってきたこと、及び香港の民間団体が記録の保存をどのように行っているかの取り組みを、アーカイブズの収集の観点から事例報告した。開催国の館の状況を把握する意味で意義ある報告であり、視察と合わせて興味深いものであった。以下にその報告の概要を示す。

##### 4. 3. 1 講演 1

###### 青島市档案馆の海外からの資料収集事業 Mr. Yang Laiqing (楊来青)

ドイツ、日本による占領と戦災によって資料を損失したため海外から青島に関する資料（写真、フィルムを中心に）のコピー、収集を行った。

TV シリーズを制作、資料集（翻訳）を作成、地図等、各種利用に供している。

##### 4. 3. 2 講演 2

###### 香港における遺産プログラム

###### Mr. Edward Kwong

現在の情報を将来のために、地域の写真を撮影し、インタビュー（一般人の参加）を残していく。

若い世代への啓発の工夫（HP のクイズ、

宝探し、すごろく…)、広報活動を行う。

プライベートアーカイブズが公的アーカイブズを支援・貢献することになる。個人記録の寄贈による収集を進めている。

## 5. 視察（9月18日）

行政機関である档案馆は基本的に解放後の档案を扱うのが原則となっており、また档案は档案馆だけでなく、図書館、博物館にも存在することから、視察対象としても大変重要である。青島市档案馆の配慮により、私ども一行だけが青島市図書館をも視察することができた。以下、それぞれの館側の説明に基づく館概要を紹介する。

### 5.1 青島市図書館

青島市図書館は、1924年に開館した。一時、国民党の図書館となった時期があるが、1949年の人民共和国建国後は、再び、青島市図書館となった。昨年、新館がオープンして現在に至っている。現在の図書館の建物の延床面積は、2万㎡。職員は、109名。組織は12部門に分かれている。年間の予算は、2,000万人民币元（約2億6,700万円）であり、そのうち、450万人民币元（約6,000万円）が図書等（電子出版物を含む。）の購入費に充てられている。1年あたり12万冊程度、蔵書数が増加している。

閲覧者数は、1日あたり3,500人から4,000人程度。来館による利用だけでなく、市内を巡回する巡回図書館車43台を運用しており、幅広い利用を図っている。現在の所蔵資料数は、176万冊（雑誌40万冊を含む。）。その内訳は、中国語文献が140万冊、外国語文献が36万冊である。

図書館の活動としては、図書等資料の閲覧のほかに、講演会等の文化的活動も行っている。また、子ども向け、軍隊向け等、対象を絞った普及活動なども展開している。

貴重な歴史的資料も約15万件所蔵しているほか、所蔵資料の特徴としては、歴史的経緯からドイツ語の文献を所蔵しているのが、他の館には無い特色となっている。

閲覧室に人があふれており、青島市民が意欲的な読書に親しんでいる状況が伺えた。



### 5.2 青島市档案馆

青島市档案馆<sup>7</sup>は1959年建設計画が立案され、1961年7月に設立された。1963年に設立された青島市档案管理局（現档案局）と以後合同で業務を行ってきた。1997年8月現在の場所（市東部延吉路）に新館を建て移転した。建築総面積は13,800㎡で日本国立公文書館の本館の約1.2倍である（日本の場合は地下に書庫を配しているが、地上部分で比べると5倍の広さになる）。2008年7月新たに展示のためだけの施設（3階建、面積6,225㎡）を建設した。現在国家一級档案馆となっている。

所蔵されている档案資料は74万卷（件）、そのうちに、建国以前の档案22万卷を含む。合計300時間を超える映像資料と2万枚の写真資料が所蔵されている。これまでドイツ・日本・アメリカ等からの青島関係資料（1930年代～40年代）の収集に努めており、70万頁の資料、5400枚の写真、580分の映像ビデオがある。中国の档案馆では目録や資料集のようなものを出版する事業が比較的盛んと思

7 参考文献：富澤芳亜、青島市档案馆の紹介、福祉文化3、島根大学教育学部社会科教育研究室、pp.49-52、2004年

われる。

楊来青青島市档案馆副館長の案内により、館の機能について説明を受け、保存修復施設、書庫等を見学。特に2008年隣接して建設された展示館（3階建）は青島市の歴史を体感する博物館ともいえる施設で、注目される。視察順に以下要点を紹介する。

#### 1 F：企画・展示ホール、閲覧室

企画展示ホール：韓国との共同研究の成果と思われる「海港都市釜山」を公開。

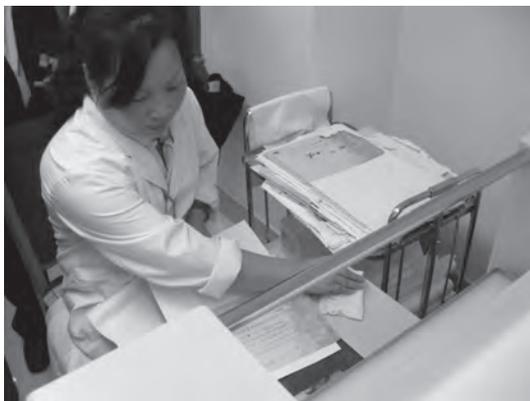
文献サービスセンター（閲覧室）：スタッフ6名で400㎡の広さ、20台のコンピューターと2台のマイクロフィルムリーダーを設置。2008年度の利用状況は来館者8,880人、閲覧数16,500件の档案と1,301件の現用文件（官報のようなもの）を提供している。



文献サービスセンター

#### 2 F：修復室、影像編集室

修復室：8名のスタッフ。年間2万頁の歴史資料を修復。



修復室

ビデオ編集室：スタッフ5名。2002年に「現代記憶プロジェクト」を開始し、青島の風景、建造物、民俗風土等の2.5万分の映像と2.5万枚の写真を記録した。

#### 3 F：目録作成室、デジタルアーカイブ室、マイクロフィルム室

データマネージメント工作室（目録作成室）：スタッフ7名。現在、青島市档案馆が所蔵する全ての档案資料は簿冊〔「案卷」〕目録と簿冊内の件名目録を記載する業務が既に完成し、それらは簿冊レベルの目録は57.6万件、件名及び幾つかの件名を組み合わせた目録データは948万件で構成されている。

デジタルアーカイブセンター：館内LAN、インターネットを通じた中国で初のデジタルアーカイブシステムを2003年に導入。サーバー13台等。現在目録データ数1,500万件で2,000余の頁のデジタル档案情報・30万枚の写真・1万分のマルチメディア情報を提供（オンラインのデジタルファイルは4テラバイト）。

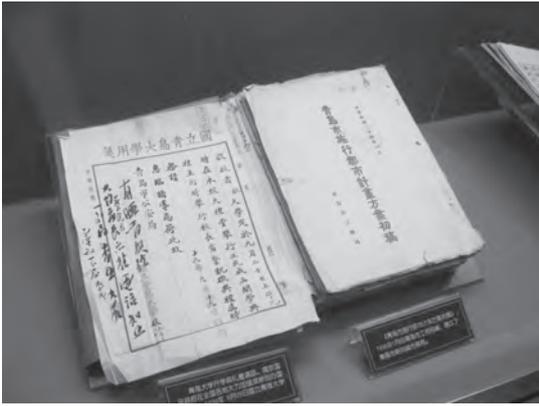
マイクロフィルム室：10名のスタッフ。16mmフィルム（5台）・35mmフィルム（1台）の2種類の撮影機を設置。2008年度末までに700万画像がマイクロフィルム化された。

#### 4 F：書庫

書架総面積4096㎡で16区画に仕切られている。壁は空洞になった煉瓦と空気層を結びつけたもので作られている。部屋の中は密封され窓が無く、完全に機械設備によって温度・湿度及び空気量を調整している。

5 F：特別展示室、オリンピック記念展示室  
特別展示室：档案馆の中の特に貴重な档案史料を集中して保管している。同室は独立した温度・湿度コントロールシステムを配備しており、温度20℃前後湿度50%前後に設定されている。

オリンピックアーカイブ陳列室：2008年に



特別展示室内の展示書類

青島にて開かれたオリンピック・パラリンピックのヨットに関する資料や実物資料及び北京オリンピック組織委員会に贈られた貴重なオリンピック記念品等を展示している。

#### 展示センター（展示館）

3階建、計6,225㎡の広さをもつ。2・3階が所蔵資料を展示した「青島の証人（検証青島）－青島市档案馆史料陳列展」。歴史的な事件・テーマを取り上げ、個別に紹介。1949年前の青島について9つのテーマの展示があり、「（第一次世界大戦における）日独戦争」、「（1949年の中国共産党による）青島『解放』」等）、中華人民共和国成立後については3つのテーマがある（建設新青島、文化大革命、改革開放）。1階には3つのテーマ（青島－中国航海スポーツの発祥の地、青島新十景写真展、小康の路－民衆生活の十大変化）。



展示センター

視察後において、特に我々に応対してくれた楊来青青島市档案馆副局長との懇談で補足する情報として以下の内容があった。

青島市档案馆の職員は、全体で108人（常勤・非常勤込み）が在籍している。定員としては80人程度であるが、青島市档案馆の展示のための職員と、解放軍を退職し、その後嘱託で雇われている人を加えて108人となる。職員の構成としては、やはり年齢が高い人が多く、若くて語学もできる優秀な人材を雇いたい但现在はそれも難しいということであった。青島市档案馆職員の採用の方法は、市政府の公務員試験を受けて、その後、受験者の試験の順番と希望によって分配されるようである。最近の中国では仕事が安定し、収入も高いということで、公務員の仕事はとても人気があると語った。

青島市档案馆の予算は市の政府から支給されている。それに加えて、国家档案馆より「档案保護費」を毎年150万元程度が支給されているということであった。

なお、セミナーの講師及び出席者は、9月18日午前には青島市档案馆を、午後にはドイツ総督旧邸、オリンピック・セーリング・センター等を視察した。

## 6. おわりに

土ぼこりが舞い、高層ビルの建築ラッシュにわく青島市のさまは、まさに現代中国の発展の状況を知るに十分であった。市街地のみならず、空港から市街地に向かう高速道路の車中からもコンクリートがむき出しのマンション群のあまりの多さにただただ驚いた。市内のスーパーをのぞいた際、あふれる物と人の購買欲、経済成長の状況も伺われた。オリンピックを経験してさらに発展を遂げる青島市内の歩道には常に花が植えかえられ、きれいに掃除されていた。市内のいたる所、建

国六十周年の大きな看板やスローガンが見受けられた。

青島市副市長と懇談に EASTICA 理事が臨んだ際、地元のマスコミ関係者も取材に駆けつけた。テレビ・新聞で取り上げられて、話題を紹介していた<sup>8</sup>。

総会において 2011 年に日本で第 10 回の

EASTICA 総会を開催することが決定された。この年は国立公文書館開館 40 年の節目の年になる。今後詳細な対応策が、国立公文書館を中心に検討されていることとなるが、多くの国内の参加者の力を結集して、ホスピタリティ溢れる会議を開催したいと考えている。



EASTICA 総会（2009 年 9 月 16 日）左から 2 人目が高山正也新議長

8 新聞報道：『青島日報』2009 年 9 月 17 日付（9 月 16 日午前中、EASTICA の第九回大会が青島市にて開かれた。楊継波国家档案局副局长、王修林青島市副市長、高山館長が開会式に出席した。会議は「歴史公文書と危機管理」をテーマとし、日本・韓国・モンゴル・アメリカ・香港・マカオより公文書管理の関係者・責任者が参加した）。TV 報道：青島電子台（QTV）、番組名「今日」、2009 年 9 月 17 日 7:10 頃放送（9 月 16 日の EASTICA 理事会メンバーによる青島市副市長表敬や午前の総会、午後のシンポジウムの模様）。